鏡に映る自分を褒めることはいかにして可能か

—試着場面における「かわいい」をめぐる相互行為分析—

堀田 裕子
摂南大学
yuko.hotta@setsunan.ac.jp

How to Praise Oneself in the Mirror?

: Interaction over the Compliment “Kawaii” in the Fitting Scene

HOTTA Yuko
Setsunan University

Key Words: Trying-on, Kawaii, Compliment, Mirror, Video Ethnography

概要

衣料品店の試着接客場面では，店員の「かわいい」という褒め言葉に対して客が同意したり，客自身が鏡を見て「かわいい」と言ったりすることがしばしば起こる．これが自賛にならず，なおかつ自然な相互行為に見えるということがいかにして可能かを，ビデオデータに基づいて考察した．その結果,「かわいい」という言葉の向けられる対象がしばしば曖昧であること，客は発話や動作のなかで「かわいい」の対象を衣服に焦点化させながら，衣服を自己の身体から切り離しあたかも別個のものであるかのように取り扱うかたちで振る舞う「被服性の呈示」（display of clothedness）をおこなっていること，「かわいい」という言葉の含む別様のあり方への可能性が，現前しない衣服に対しても「かわいい」と言いうる状況をつくり上げていることを明らかにした．

１．はじめに

女性が手鏡に映る自分の顔を見て「かわいい」と言う美容整形外科の CM がある．魔法をかけられ美しくなるシンデレラの物語をモチーフとしたものだ．だが，鏡に映る自分を見ながら「かわいい」などと自分を褒めることは，一般的には避けるべき行為とされている．「自賛」（self-praise）は軽蔑の対象となり，何らかのサンクションを被る場合もある．

しかし，それが公然とおこなわれる場面がある．たとえば，美容院で仕上がりを確認する時（Oshima and Streeck 2015），あるいは，衣料品店で試着をしている時，客は鏡に映さないと自分を確認することはできないのだが，鏡に映る自分を見ながら「かわいい」と言

うことは，むしろ自然な行為に見える．

オオシマとストリークは，美容室で客が鏡を見ながらスタイリングの仕上がりを評価する場面を分析しているが（Oshima and Streeck 2015），そのなかに，客が鏡を見ながら「O:h cute.」「It's really nice. 」などと言う例が挙げられている．この場合，スタイリングの後というタイミング，美容室という場所，美容師という場面を共有する人物，そして鏡というモノ，といった条件が揃ってはじめて，自然な行為として見ることができる．どれか一つでも欠ければ，鏡に映る自分を見て褒める行為は「自賛」に見えてしまうであろう．

同様に，試着場面においても，試着中というタイミング，衣料品店という場所，店員という場面を共有する人物，そして鏡というモノ，といった条件が揃ってはじめて，鏡に映る自分を見て褒めることは自然な行為として見ることができる．

たが，じつは上記の条件だけが揃っても「かわいい」と自分を褒めることがつねに禁忌に触れないわけではない（たとえば，モデルのようなポーズを取りながら鏡に映る自分を見て「かわいい」と言う客を想像してみてほしい）．客はもちろんのこと，店員を含む場面参与者たちが，その発話を自然に見えるように場面をつくり上げているのである．

こうした前提に立ち本稿で筆者が考えたいのは，第 1 に，試着して店員から「かわいい」と言われ同意したり，鏡を見ながら「かわいい」と言ったりするという行為は，いかにして「自然なもの」に見えるのか，第 2 に，「かわいい」という褒め言葉には，どのような特性があるのか，である．

２．「かわいい」のレリヴァンス：身体と衣服の関係性の観点から

本稿で取り扱うのは，セレクトショップにおいて女子大学生が試着した自分の姿を鏡に映しながら店員とやり取りする場面を撮影したビデオデータ [1]だが，褒め言葉として「かわいい」が頻出する [2]．そのため，まずはこの「かわいい」という言葉について予備的考察をしておきたい．なお，「かわいい」に関する研究は複数おこなわれているが（eg. 四方田 2006），その背景にはこの語が意味するところの曖昧さがある．だが，本稿の目的は，その概念自体を明らかにすることにも，「かわいい文化」を探究することにもない，ということをあらかじめ断っておく．

本稿で「かわいい」という言葉に着目するのは，あくまでも，それが試着接客場面のような身体を何らかのかたちで着飾る場面で多用される言葉だからである．こうした着眼点から，この「かわいい」のレリヴァンスを，篠原（2015）の議論をたどりながら身体と衣服との関係性の観点で考えてみたい．

貝類は，自分の身の丈にあった貝殻という住まいを作りあげつつ，そこに一生住みつづける．それに対し，人類は二本足で歩行することにより自由になった手で，モノを作り操ることができる脊椎動物であるが，頭部が垂直に支えられることで，口頭言語と脳の成長が可能になり，身の丈をはるかに超える建造物を作りあげてきた（篠原 2015: 91）．とはいえ，人類は生まれてしばらくは未熟な存在であり，ひとり立ちするまでに時間がかかる．

このことから，篠原は「脊椎動物としての人になる前に，軟体動物的な生をおくり，この生の痕跡は存続するのではないか」と考える．

この「軟体動物的な生」の期間，人類にとって必要なのが衣服である，と篠原は考える．人は生まれた時からすぐに衣服（おくるみ）によって守られなければならない．貝類にとっての貝と同様の働きをするのが，人類にとっての衣服ではないかというわけである．そして篠原は，人間をこうした根源的受動性を引きずり続ける「衣服内存在」と考える．

> 人は，まずくるまれるという根源的受動性とともに世界に登場し，衣服内存在であるかぎり，この根源的受動性を引きずりつづけるのである．いいかえるなら，衣服内存在とは，その内奥に未成熟であるほかないものを持ち続けるのだ．（篠原 2015: 100）

「未成熟であるほかないものを持ち続ける」のはあらゆる人類に共通することだと思われるが，四方田（2006）が「かわいい」の土壌としての日本社会に未成熟さを見出したのと同様に，とりわけ日本文化には「成熟の拒否めいたもの」（篠原 2015: 104）があるという．これは，根源的受動性の側面をあえて顕在化させることであると言えるだろう．しかし，対他的に「成熟の拒否」を拒否する（しなければならない）人びと――“成熟したオトナ”であるべきとされる人びと――もおり，そういう人びとにはこの言葉は向けづらい．「かわいい」が成人男性に対してはあまり用いられず，子どもや女性，また，場合によっては高齢者に対して用いられるのは，こうした構造が影響していると考えられる．

そして，この「かわいい」の構造は，身体を着飾ることと密接な関わりがある．

> 〔「かわいい」の構造は，〕「着せられる」という根源的受動性を基調として，「着る」-「着せる」-「飾る」の系列を過剰なまでに増幅させるものとして，構造化されうるだろう．……「かわいい」とは，大きさの問題でもなければ，形の問題でもないということだ．といって言いすぎだとすれば，大きさにせよ，形にせよ，少なくとも第一義的な問題ではない．「着る」-「着せる」-「飾る」という系列への関連や広がりがあれば，「かわいい」のである．（篠原 2015: 112-3，亀甲括弧内引用者補足）

「かわいい」の根源は対象の形象にあるのではない．「かわいい」が表わすのは，着飾ることへのさらなる可能性，あるいは，別様である可能性である，と考えられる．つまり，被服行動という文脈では「かわいい」とは運動的なものであると言えよう．

この点を理解するには，篠原が挙げている，ハローキティとミッフィーとの対比が興味深い．両者とも「かわいい」のだが，大きな違いがある．それは，キティは左耳にリボンを着けており，このリボンを別の色に変えたり帽子に変えたりしてみたいという気にさせる．ところが，飾りめいたものを着けていないミッフィーは，そもそも「飾りをつけてみたいという欲望も，飾りにヴァリエーションを凝らしてみたいという欲望も，生じさせな

い」（篠原 2015: 112）．言い換えれば，ミッフィーと異なり，キティはすでに着飾っているがゆえに，別様のあり方への可能性と欲望に拓かれていると言えよう．だから，キティの方がより「かわいい」のだという．

つまり，「かわいい」という言葉の向けられる対象は，「成熟の拒否」というまなざしを向けられる状態でありかつ，別様のあり方に拓かれた状態，あるいは，拓かれる可能性にある状態と言うことができるのではないだろうか．だから，たとえば幼い子が初めて制服を試着した場合には「かわいい」と言いうるが，買い足すために試着した場合には「かわいい」とは言いにくいだろう．なぜなら，これまで着た（着せた）ことのないものを着て，別様のあり方に拓かれた時に「かわいい」と言いうるからである [3]．ただし，先述したように，対象が“成熟したオトナ（であるべき人びと）”の場合や，衣服自体がそうした雰囲気を持っている場合には，「かわいい」という言葉をかけづらくなるだろう．

このように，「かわいい」という言葉は，第一義的に，根源的受動性をもつ「衣服内存在」としてのあらゆる人間に対して向けられる可能性をもつ．それは，身体を着飾ることでより増幅されていく，着飾ることへの欲望と不可分である．身体が別様のあり方を拓くことは，たんにモノによってだけでなく仕草などの動きによっても達成されうるだろう．「かわいい」ファッションやスタイルとは，不断の運動であると言ってもいい．着飾れば着飾るほどもっと良くなるのではないかと思わせる，その意味でのある種の不完全さを伴いながら，まだ見ぬ状態を対象に見出すことも「かわいい」と表現されうる．

篠原の言う「衣服内存在」は，言うまでもなく M.ハイデッガーの「世界内存在」の概念に基づく．「世界内存在」についての詳細を論じるには筆者の力量が及ばないが，そのエッセンスだけを取り出すのならば，それは人間（主体）の外部に世界（客体）を想定せず，むしろ人間はつねにすでに世界の内に投げ入れられ気分づけられており，世界の内にあるからこそ人間であるということを表わす概念である，と説明できよう．それと同様に，「衣服内存在」も，身体の外部に衣服を想定するのではなく，身体は衣服とともにあり衣服の内に投げ入れられ気分づけられているのであり，衣服の内にあるからこそ人間なのである，という考え方だと言える．たしかに，スーツを着るだけで気持ちがシャキッとすることがあるが，それはスーツのフィット感がそうさせるというよりも，むしろスーツという衣服――あるいはスーツに付与されている社会的意味――にくるまれることで，そのように「気分づけられる」と言った方がいいだろう．

「かわいい」という言葉はしばしば主語が不在のまま使用されることが多く，したがって，その言葉が人に対して向けられる場合，その対象はその人自身なのか，その衣服なのか，はたまたその両方なのかが曖昧であることが多い．だが，篠原の議論によれば，「かわいい」のは「衣服内存在」としてのその人であり，その衣服を着ている身体でもあり，その身体が着ている衣服でもあるということになろう．いや，その曖昧さは，「かわいい」だけでなく「かっこいい」や「素敵」などの褒め言葉にも共通するはずだ．私たちはつねにすでに「衣服内存在」なのであり，その内奥に「かわいい」と表現されうる根源的受動性

を引きずっているのである.

３.「褒め言葉」をめぐる会話システム

自分に向けられる「かわいい」という言葉は，ひとまず褒め言葉として受け取ることが可能な言葉である.「ひとまず」と言ったのは，それがあいづちや共感の意味で用いられる可能性もあるからである（石川 2015）．だが，試着接客場面において，試着中の人に掛けられる「かわいい」は褒め言葉であると言っていいだろう．そこで，本章では「褒め言葉」をめぐる会話システムについて確認しておきたい.

私たちは会話のなかで相手の発話に対して同意することもあるが同意しないこともある. だが，同意と非同意は等価ではなく，同意の方に優先性がある（Pomeranz 1984）．そのため，非同意の場合にはさまざまな工夫をしなければならない．たとえば，すぐに応答せず沈黙したり，相手の発話を部分的に繰り返したり，いったん受容してから否定の接続語でつないだり……．こうした遅延（delay）を伴って，非同意は示されるのである.

しかし，相手の発話が自分に対する褒め言葉である場合，難問に突き当たることになる. つまり，同意に優先性があるものの，同意すれば自惚れや自賛になってしまうので同意は避けられなければならないというジレンマに陥るのである．A.ポメランツは「褒め言葉への応答」（Compliment Responses）と題した論考のなかで，自賛（self-praise）に関する興味深く重要な考察をおこなっている（Pomeranz 1978）．このジレンマを解消する，同意と非同意の両形式を含む「中間」（in between-ness）のやり方があるというのだ.

まず，相手からの褒め言葉に対して受容（acceptance）するか拒否（reject）するか，という選択肢がある．たとえば，褒め言葉に対して受容する場合の多くは，感謝の言葉を伴う（「ありがとう」）．しかし，それに続けて同意（agreement）すれば，自賛になってしまう. そこで，非同意（disagreement）を選択する場合もある（「ありがとう，でも…」）．だが，それ以外にもさまざまな「中間」の応答の仕方がある．ポメランツは大きく(1) 褒め言葉の格下げと，(2) 対象の変更という 2 つの仕方を挙げている.

(1)「褒め言葉の格下げ」には，同意の場合と非同意の場合とがある．同意の場合は，褒め言葉に対し，相手よりも緩やかな表現で同意することが一般的である．これにより同意と非同意の両方を表わすことができる．ただし，引き下げられた表現での同意でも，自分以外の対象への褒め言葉に続くのが一般的である．また,「褒め言葉は，受け手の外部に切り離し可能な対象を位置づけることで，同意が生じやすくなる」（Pomeranz 1978: 97）と説明されている. 次の例では, A が強い評価語を用い (↑), B が弱い評価語を用いている (↓).

[SBL:2.2.4.-3]

(P)↑A：　Oh it was just beautiful.

(R)↓B：　Well *thank* you uh I thought it was quite nice.

（Pomeranz 1978: 94，イタリックは原著）

また，非同意の場合は，一般的に，褒め言葉を完全に否定するのではなく，やはり緩やかな表現を用いることが多い．それが同意の場合と異なるのは，逆説の接続詞（though, yet, but など）が併用される点である[4]．たとえば，下記の例を参照していただきたい．

[AP:FN]

A： Good shot

● B： Not very solid though

（Pomeranz 1978: 99）

いっぽう，(2)「対象の変更」とは，多くの場合，褒め言葉の対象を自分自身から自分以外に変更することであり，下記のような隣接ペアを成す．

A1：A が B を褒める．

A2：B が自分以外を褒める．

（Pomeranz 1978: 101，和訳は引用者）

第二成分に含まれる「自分以外」は，モノであったり他者であったりする．この時，一般的に褒め言葉が格下げされることはない．たとえば，下記の例ではボートの漕ぎ手が褒められ，それへの応答としてボートを褒めることで，褒め言葉の対象を自分から遠ざけている．

[WS:YMC.-4]

R： You're a good rower, Honey.

J： These are very easy to row. Very light.

（Pomeranz 1978: 102）

また，自分以外の対象として相手を選び，相手を褒め返すこともある．

A1：A が B を褒める．

A2：B が A を褒める．

（Pomeranz 1978: 105，和訳は引用者）

では，褒め言葉とそれへの応答が，「衣服内存在」に関するものになるとどうなるのであろうか．ポメランツが挙げている例を見てみよう．

［HS:S:11］

A：　You look so nice.

B：　I got a new shirt.

A：　It’s very pretty.

B：　Thank you.

（和訳）

01A　あなたとても素敵ね

02B　新しいシャツを買ったの

03A　それすごくいい

→04B　ありがとう

（Pomeranz 1978: 84，矢印と番号および和訳は引用者）

A が B のことを素敵だと褒める．ところが，B は褒め言葉の対象を自分自身からシャツの方に変更する．A は再度，褒め言葉を述べる．B はその A の言葉を，感謝の言葉とともに受容する．この会話は，隣接ペアを成す 01 行目（褒め言葉）と 04 行目（感謝の言葉）の間に，02 行目と 03 行目の会話が挿入されているという構造になっている．

この事例で確認しておきたいのは次の 2 点である．まず 1 つは，相手の褒め言葉を受容することと同意することとは異なり，「同意は感謝よりも出現頻度が低い傾向があり，それを言うための条件も厳しいと思われる」（Pomeranz 1978: 87-8）点である．上の例では，「ありがとう」の後には同意も非同意も続く可能性はあるが，A が最初に対象にした B 自身への褒め言葉に B が同意することは考えづらい．

そしてもう 1 つは，A は何を褒めているのかが実のところはっきりしない点である．A は 01 行目で「あなた（You）」と言っているので，褒め言葉の対象はひとまず B 本人であると考えてよかろう[5]．しかし，B は次のターンで即座に「ありがとう」と言う代わりに，いま着ているシャツが新しく買ったものであることを告げる（02 行目）．一見すると「素敵ね」という褒め言葉に対する応答としては奇妙だが，ここで B は，A からの褒め言葉の対象を，シャツに変更したのではなく，シャツに焦点化したと言った方が適切だろう．

そして，A は再び褒め言葉を言うが，その時の主語は「it」であり（03 行目），したがってシャツということになろう．こうして，直前のターンで褒め言葉の対象をシャツに焦点化した B は受容しやすくなり，感謝の言葉を述べることができると考えられる（ただし，この後には同意が続く可能性も，「でも」などを伴い非同意が続く可能性もある）．

このように，人と衣服との境界は曖昧であり，したがって，何を褒めている／褒められているのかも曖昧であることがしばしばである．それは人間がまさに「衣服内存在」であるからだ，と言っても良いだろう．ましてや，日本語会話に頻繁に見られるように主語を伴わずに褒める／褒められる場合，何が対象になっているかは状況依存的である．だが，

それゆえに，褒め言葉を受けた側は，その対象を自分自身ではない何か（この場合は衣服）に焦点化させることも可能であり，その結果，相手からの褒め言葉に対し受容あるいは同意しやすくなると考えられる．

４　「かわいい」をめぐる相互行為秩序：データとその分析

ではここからは，実際の試着シーンにおける会話例を取り上げながら，「かわいい」という褒め言葉をめぐる相互行為秩序を見ていきたい[6]．

４．１　「かわいい」に同意する：会話編

店員からの「かわいい」に対する客の応答の仕方は，衣服（商品）を見ている時と試着している時とでは異なる．次の**断片１**と**断片２**は，この後，試着することになる衣服について，店員が客に説明している会話の一部である．

断片１　商品を勧める際の「かわいい」（AV105649.-vol-02　0:00:24~0:00:31[7]）

店員　これくらいだったら:今時期にちょうど
客　　あ::あ::[あ::あ::
→店員　　[は:い(.)着ていただける(.)でこれもかわいいですね
→客　　あ:あ:あ

断片２　商品の着方をアドバイスする際の「かわいい」（AV105649.-vol-02　0:01:33~0:01:46）

店員　ちょっとこ:羽織りでね::夏着てたＴシャツの上に:こういうパーカーの(.)
→　　[カットソータイプとかを::(　　)調節して着ていただいてもかわいい
客　　[ふんふんふんふんふん
→　　あ:::::

断片１では，店員は「これ」という言葉で衣服を明示しながら「かわいい」と言っているが，**断片２**では，「かわいい」の主語が不明瞭である．だが，いずれの場合も，店員の「かわいい」に対して客は「あ:」や「ふんふん」というあいづちで応答している．この「あ:」は，受容とともに気づきを表わしていると考えられる[8]．だが，ここでは明確な同意（「うん」「かわいい」など）は現われていない．

ところが，試着をすると，「かわいい」に対する応答の仕方は変化する．次の**断片３**は，客がジャケットを試着中に，鏡を見ながら店員と交わしている会話の一部である．

断片３　「かわいい」に同意する(1)（AV110851.-vol-04　0:02:43~0:02:47）

店員　襟がちょっと大きくて[(　　)かわ[いい
客　　[ですね:　　[かわいいですよね:

この時，店員が襟に関して述べて「かわいい」と言っているが，客は「ですね:」「かわいいですよね:」と応答している．先ほどの**断片１**や**断片２**とは異なり，受容や気づきではなく，はっきりと同意している．ただし，客は試着している当人であり，自分自身が鏡に映っている．それなのに，あたかも自分自身のことは度外視しているかのようである．

また，次の**断片４**は，客が試着室内で先ほど見ていた衣服を着用し，試着室から出てきたところに，店員が声を掛けるというシーンである．

断片４　「かわいい」に同意する(2)（AV105649.-vol-03　0:01:59~0:02:06）

01 店員　お疲れ様です(.)どうでしょうか(.)゜かわい-゜
02 客　　こんな感じ(1.0)(　　)
→03 店員　うん(.)かわい-
→04 客　　うん

店員が「お疲れ様です」と言いながら客の方に近づき，1 回目の褒め言葉「゜かわい゜」（01 行目）を発する．ただし，この発話に主語はない．また，この発話は小さな声で発せられているため，「思わず漏れてしまったひとりごと」のような体を成しているが，客に聞こえないほど小さい声ではなく，言うまでもなく褒め言葉である．それに対する客の反応は，「こんな感じ」（02 行目）である．これがひとりごとか店員に対して向けられた言葉かは分からない．すると，店員は 2 回目の褒め言葉「うん(.)かわい-」（03 行目）を発する．それに対して，客は「うん」（04 行目）と応答する．ここでも，客は明確に同意している．

これらは自分が映った鏡を見ながら，相手（店員）の言う「かわいい」に同意する例であるが，自然な会話であるように見えるのではないだろうか．このように，「かわいい」という褒め言葉に対して，非同意あるいは受容にとどまるどころか，同意することが優先的である可能性が見える．次の，「かわいい」に同意しない**断片５**と比較すると，褒め言葉「かわいい」をめぐる優先性がより明確になるだろう．

断片５　「かわいい」に同意しない（AV105649.-vol-03　0:02:37~0:02:45）

→01 店員　うんかわいい (1.0)
→02 客　　あんまり:
03 店員　はい
→04 客　　なんか(.)パーカーにしては(.)軽いで[すよね
05 店員　　[そうですね(.)あんまり厚手じゃないので::

ここには「クレーム説得連鎖」（堀田 2021）も出現しているが [9]，注目したいのは，褒め言葉に対する応答の部分である．店員の「うんかわいい」（01 行目）という褒め言葉に

対して，客は応答せず,「あんまり:」(02 行目）という言葉で応答を開始する．さらにその後，やや途切れ途切れに「なんかパーカーにしては軽い」(04 行目）とコメントする．おそらく薄手なのだろう，商品に対するクレームのようにも聞こえる．つまり，非同意の前に遅延（言いよどみ）が生じている．このことは,「かわいい」という褒め言葉に対して同意することが優先的であることを示していると言えよう．

ところで，先ほどの**断片４**では,「かわいい」に対して客は，1 回目には「こんな感じ」，2 回目には「うん」と応答していた．これらの会話に共通しているのは，(1)「かわいい」に主語がない点，(2) 褒め言葉に対し「ありがとう」などの感謝の言葉や，**断片１**などで見た「あ:」という感動詞で表わされる受容が示されていない点である．つまり,「受容」の前置きもなく同意されているのである．

だが，1 回目と 2 回目の応答は，重大な点で異なる．

まず,「こんな感じ」という 1 回目の応答について．「こんな」には着用した衣服が含まれており，より詳細な表現に言い換えれば「試着したらこんな感じになりました」といったところであろうか．この言い方は，試着した自分を，自分自身から切り離して扱っているように聞こえる．これは，ポメランツの言う「(2) 対象の変更」に近い．

ただし,「こんな感じ」という客の発話が一般的だと言いたいわけでは毛頭ない．ポメランツが「褒め言葉は，受け手の外部に切り離し可能な対象を位置づけることで，同意が生じやすくなる」と述べていたように,「かわいい」の対象を自分自身から切り離しているかのように聞こえる発話が, それへの同意を可能にしているのではないかということである．たとえば，先ほどの**断片３**において，客が自分の映った鏡を見ながら，店員の言う「かわいい」に同意できたのは，店員が襟に関して述べて「かわいい」と言っており，当該の会話があくまでも衣服に関するものであるという状況がつくり出されたからだと考えられる．つまり，こうして自分自身ではない何か（この場合であれば衣服）に対象を位置づけることで，同意が可能になっていると考えられるのである．

また，そもそも「こんな感じ」という発話は，店員による「゜かわい゜」ではなく「どうでしょうか」の方に対する応答である可能性も見えてくる．01 行目の「どうでしょうか(.)゜かわい゜」の際には, 客は試着室から出てきたばかりでカーテンが開ききっておらず, 店員とともに鏡を見て評価する体勢にはなっていなかった（後述の**断片４’**および**写真１**から**写真３**も参照のこと）．だが，その体勢ができ上った時点で,「どうでしょうか」の方に対する応答としての「こんな感じ」を発することによって，今こそ（再）評価のタイミングであるというキューを呈示していると考えられる．店員による 03 行目の「うん(.)かわい-」の「うん」は，このタイミングの了承を表わしていると言っては言い過ぎだろうか．

次に,「うん」という 2 回目の応答について．この会話だけを取り出すと，客は自賛の禁忌に抵触しているように見える．しかし，店員のこの「かわいい」にも主語はない．加えて，客は前述のように店員の言う「かわいい」の対象を自分自身から切り離していた．しかも，客自身が評価のためのスロットを用意した共同評価の一環であることも手伝って,

客ははっきりと「うん」と同意することが可能になると考えられる．

このように，試着接客場面では，店員の「かわいい」という褒め言葉に対して客が同意することは優先的ですらある．だが，この一連の会話およびそれに関する解説を読んだ読者のなかには，まだなお客の応答が自賛に思える方がいるかもしれない．この会話を自賛ではなく自然なものとして理解するためには，おそらく目線と動作を含めたトランスクリプトも見ていく必要があろう．それにより，衣服への焦点化は，発話とは別のやり方でも実践されていることが分かるであろう．

４．２　「かわいい」に同意する：目線・動作編

先ほどの**断片４**に目線を加えたトランスクリプトが，次の**断片４’**である．

断片４’　「かわいい」に同意する(2)（目線入り）（AV105649.-vol-03　0:01:59~0:02:06）

01 店員　お疲れ様ですどうでしょうか(.)゜かわい-゜ **写真１**

客の目線　鏡＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

店員の目線 客＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

02 客　こんな感じ(1.0)(　) **写真２**

客の目線　鏡＿カーテン＿鏡＿＿＿＿

店員の目線 カーテン＿＿＿＿鏡＿＿＿＿

03 店員　うん(.)かわい- **写真３**

客の目線　鏡＿＿＿＿＿＿

店員の目線 客＿＿＿＿＿＿

04 客　うん **写真４**

客の目線　鏡＿＿

店員の目線 客＿＿

写真１　店員が「゜かわい-゜」と発話するシーン（AV105649.-vol-03　0:02:01）

写真２　店員の「゜かわい゜」を受けて，客が「こんな感じ」と発話するシーン（AV105649.-vol-03　0:02:02）

写真３　店員が「うん(.)かわい-」と言うシーン（AV105649.-vol-03　0:02:05）

写真４　店員の「かわい-」に，客が「うん」と応答するシーン（AV105649.-vol-03　0:02:06）

写真を見ていただくと，この 2 人が通常の会話をしているようには見えないだろう．つまり，試着時に特有の目線，位置関係，体勢や態度があると考えられる．

まず，目線を確認したい．この場面で，店員は基本的に客を見ており，「かわいい」と言う際も客の方を見ている．ところが，客は，店員が褒め言葉を発した時を含め，基本的にずっと鏡を見ている．鏡を見ていないのは，店員が試着室のカーテンを開けている時にカーテンに目をやった一瞬だけである（**写真１～写真４**）．「かわいい」と言われた時も店員の方を見ない．したがって，通常の会話のように目を合わせていない，あるいは少なくとも対面していないことが確認できる．

客，店員，鏡の位置関係は，**図１**のように示すことができる．客と店員の位置は L 字型の「F 陣形」（F-formation）を成しており，客と店員の操作領域が重なってできる「O 空間」（O-space）が形成されていると言えよう（Kendon 1990）．なお，店員が客の後方に立って接客をする場合もあるが，その場合は，客と店員は基本的に鏡のなかで“対面”するかたちになり，本来の意味で対面したり店員が衣服の微調整をしたりしようとすると，客が「身体ねじり」（body torque）を強いられることになる（Schegloff 1998，**図２**も参照）[10]．筆者の手元にあるデータではいずれも，客が鏡と対面し，その間に店員が立つ，この L 字型の位置関係になっている．

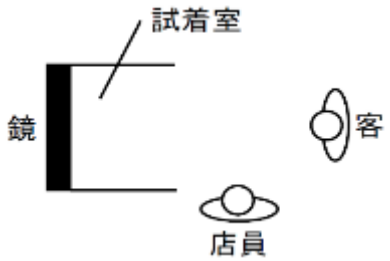

図１　**写真１～４**の客・店員・鏡の位置

ただ，この場面では先述のように，客は鏡の方向に足を向けて鏡を直視しており，店員のことは見ていない．そのため，見方によっては，店員を無視しているようにも見える（もちろん周辺視野には入っているだろう）．こうした位置関係と目線は，試着接客場面においてごく一般的に見られるものでもある．

次に，**写真１**から**写真４**における客の体勢と動作に注目していただきたい．“いかにも試着中”といった体勢と態度ではないだろうか．つまり，鏡から一定の距離を置き，まっすぐに立ち，移動せず，一点（鏡）を見つめ，試着中の衣服を触っている．この衣服の総試

着接客時間，つまり試着室から出てきて試着室に戻るまでは 1 分 52 秒だったが，その間，客はこの位置から動いておらず，唯一身体を動かしたのは背面を鏡に映して見た時だけだった（**写真５**）．この動作も試着場面でしばしば見られるものであろう．こうした衣服に焦点化する動作は，当該の会話が衣服に関するものである，と焦点化することに寄与していると考えられる．

写真５　客が鏡に背面を映して見ているシーン（AV105649.-vol-03　0:03:36）

また，客の「受け手性」（recipiency）も確認しておこう．客と店員は L 字型の F 陣形を成しつつも，客は鏡を直視し店員とほとんど目を合わせない．だが，これにより，店員の褒め言葉を自分自身に向けられたものとして受け取らないことにつながっていると考えられる．また，「かわいい」と褒められても，客は「ありがとう」などと受容を示さない．「ありがとう」と言ってしまえば，自分自身に向けられた褒め言葉として受け取ることになる．こうして，「かわいい」という言葉に同意できるのである．

ところが，店員は客とは異なる状況に置かれている．もし衣服に焦点化して「かわいい」と褒めているように聞こえる言い方をすれば，客は不愉快になりかねない（仮に店員が「服がかわいいですね」と発話した状況を考えてみれば分かるであろう）．つまり，少なくとも客に対して店員は，「衣服を試着した客」を褒めているように聞こえなければならない．客だけを褒めるのは NG だが，衣服だけを褒めるのも同様に NG なのである．そのことが，「かわいい」にしばしば主語がない理由の一つでもあろう．

このように，試着接客場面において「かわいい」という褒め言葉は主語なしで使用され，対象が曖昧であることが多い．だが，だからこそ客は，褒め言葉を自分自身に向けられたものではないという「受け手性」を呈示しつつ，自分自身から着用している衣服へと焦点化し，「かわいい」に同意することが可能になる．いっぽうで，店員は，「かわいい」を，客自身に対してだけでも衣服に対してだけでもなく，衣服を着た客――「衣服内存在」としての客――に向けていることを呈示する．試着接客場面では，こうした曖昧さとズレを伴いつつ，場面参与者たちによって絶妙な相互行為が達成されているのである．

４．３　客が自ら“自分”を褒める

試着接客場面において，客は店員に「かわいい」と褒められて同意するだけでなく，自分で“自分”を褒めることもある．次の例は，試着して鏡に映った自分を見てすぐに「かわいい」と言うケースである．

断片６　鏡を見てすぐの「かわいい」（AV142704.-vol-02　0:03:24~0:03:29）

→01 客　　あ-かわい: ((鏡を見ると同時に)) 写真６

→02 店員　うん–で留めてしまっても::

　03 客　　はい

　04 店員　いいし::開けたままでも(0.4)いいし 写真７

写真６　客が鏡を見た途端，「あ-かわい:」と言うシーン（AV142704.-vol-02　0:03:24）

写真７　店員が客の前ボタンを留めているシーン（AV142704.-vol-02　0:03:30）

客は店内で，自前の衣服の上から水玉柄のカーディガンを店員に着せてもらい，大きな鏡のある場所に移動してきた．そして，鏡を見た瞬間，「あ-かわい:」（01 行目）と言う（**写真６**）．鏡は**図２**に示したように，客の目線の先にある．店員はその発話に同意すると同時に，前のボタンを留めたり開けたりする着方についてアドバイスをする（**写真７**）．

写真６を見ると，客は「あ-かわい:」と言いながら左手で襟元を触っている．鏡を見た瞬間に「かわいい」と言うのはかなり“危うい”行為だと言えるが，先述のように，こうした衣服を触る動作によって，「かわいい」の対象を衣服に焦点化しており，だからこの発話が自賛に聞こえないのだと考えられる．

なお，店員は，**図２**における破線の位置から実線の位置に移動してくるのだが，客と陳列棚の間は狭く，破線の位置からでも接客は可能だったように思われる．だが，破線の位置の場合，先述の「身体ねじり」を引き起こす可能性があるため，店員は実線の位置にいることが接客上ベストだと思われる．

この客も，鏡の真正面に立ち，基本的には鏡を直視しているが，時折，**写真８**のように背面を確認する動作もしている．いっぽう店員は，**写真８**のように鏡を見たり**写真９**のように客

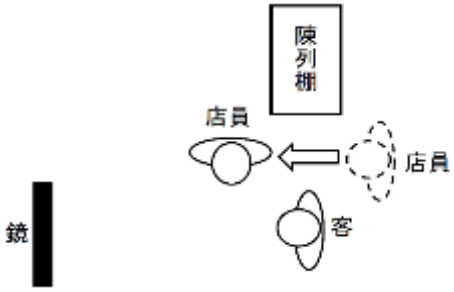

図２　**写真６～11** の客・店員・鏡の位置（店員は，**写真６**では点線の位置にあり，その後，実線の位置に移動してくる）

写真８　客が衣服の背面を鏡に映すと同時に，店員が鏡を見るシーン（AV142704.-vol-02　0:03:39）

写真９　客が「かわい:な:」と言う直前のシーン（AV142704.-vol-02　0:03:57）

の方を見たりと視線を往来させている．

次の例も，客が衣服に焦点化して「かわいい」と言う場面である．

断片７　鏡を見ながらの「かわいい」（AV142704.-vol-02　0:03:54~0:03:56）

店員　今年こういうえり:とか流行っているので(　　)と思いますね::

客　写真９ふん:かわい:な: 写真 10

店員　((無言でうなづく))

写真 10　客が「かわい:な:」と言った直後，店員がうなづくシーン（AV142704.-vol-02　0:03:59）

写真 11　店員が洗濯方法を客に説明しているシーン（AV142704.-vol-02 0:04:59）

襟付きの衣服が流行しているという情報を得て，客は「ふん:」というあいづちの後に「かわい:な:」と言う．客はこの発話の前後で，襟を触ったり（**写真９**），袖を触りながら直接見たりしている（**写真 10**）．ここにも，「かわいい」の対象を試着中の衣服に焦点化しようとする動作が確認できる．

店員は，客の「かわいい」という言葉に同意する．ただし，その時の目線は会話をする時とは異なるようである．**写真 11** は，試着中の衣服の洗濯方法を説明しているシーンであ

るが，店員の目線は客の顔に向いているのが分かる．しかし，「かわいい」に同意している**写真 10** やその直前の**写真９**などでは，店員の目線は客の胸元に向いており，顎は引き気味である．これら目線の違いは，客による「かわいい」という発話が自賛にならない状況と大きく関わっていると思われる．

客が鏡を見て，試着中の衣服（商品）が気に入ったことを表わす時，褒め言葉が発せられる可能性は高い．だが，鏡には客自身も映っているため自賛になる“危うさ”がある．その際，店員は客の全身が確認できるような位置と体勢をとることで，客とともに評価する者となり，客の自賛を回避しているのではないだろうか．つまり，店員が客の顔を直視するのではなく，**写真９**や**写真 10** のように顎を引き気味で客の方を向いたり，**写真８**のように鏡を見たりすることは，客とは別の人格をもつ店員がその審美眼で客とともに評価することにつながり，その結果，客の評価や褒め言葉は店員とともに生み出されたものとなる．こうして，客の言う「かわいい」は自賛になることを回避できていると考えられる．

４．４　現前しないものへの「かわいい」

「かわいい」という褒め言葉は目前の客あるいは衣服に対して向けられるだけではない．今ここにない衣服，すなわち想像上の衣服に対しても向けられる．

断片８　ショートパンツとの組み合わせを提案中の「かわいい」

（AV105649.-vol-03　0:02:27~0:02:38）

01 店員　それかもうショートパンツとか履いて::ちょっとここで(0.4)
　　これぐらいのとこで留めといていただいてパンツがちょこっと出る(　)**写真 12**
　　[感じでもかわいいですし(.)けど::
02 客　　[うんうんうんうん　あ::[:
→03 店員　　[うんかわいい **写真 13**

写真 12　店員が「パンツがちょこっと出る感じでもかわいい」と言いながら，試着室内の鏡を客と一緒に見るシーン（AV105649.-vol-03　0:02:34）

写真 13　店員が「うんかわいい」と言うシーン（AV105649.-vol-03　0:02:38）

ここでの客と店員と鏡の位置関係は**図 1** と同じである．客はこの時，私物のロングパンツを履いている．だが，店員がここで説明しているのはショートパンツと組み合わせた場合のコーディネートについてである．したがって，01 行目で「パンツがちょこっと出る(.)感じでもかわいいですし(.)けど::」というのは，あくまでも想像上の話である（**写真 12**，**写真 14**）[11]．しかし，その後に客は「うんうんうんうんあ::」（02 行目）と何度もあいづちを打ち，それに重ねるようにして，「うんかわいい」と言う（**写真 13**）．つまり，この「かわいい」は想像上の組み合わせに対して述べられていると言えよう．

次の**断片９**と**断片 10** も同様に，今ここにないもの（との組み合わせ）について，客が「かわいい」と述べる事例である．

断片９　ワンピースのような着方を提案中の「かわいい」

（AV105649.-vol-03　0:03:18~0:03:39）

01 店員　(　)すと:んと落として(.)ぴったぴたのパンツとか::[あの::
02 客　[うんうんうん
03 店員　([　)やってもワンピースっぽく着ちゃってもかわいかな([ )
04 客　[あ:::::　[゜あ::゜
05 店員　うん
06 客　あ:い:ですね::
07 店員　は:い[(　)
→08 客　[かわいい(2.0)ふ:んあ::((横を向いたり襟元を触ったりしながら))

店員がここで提案しているのは，試着中の衣服は丈が長いので，「ぴたぴたのパンツ」と組み合わせてワンピースのように着る着方である．「あ:い:ですね::」（06 行目），「かわいい」（08 行目）はその提案を受けて発せられている．この会話は衣服に焦点化されているが，客は「かわいい」と言いながら横を向いたり襟元を触ったりして，動作でも衣服に焦点化しているのが分かる．

写真 14　**写真 12** を別角度から撮影した，客と店員の位置関係．円で囲んだ部分のように，鏡に客と店員が映った状態で会話をしている（AV105647.-vol-03　0:03:21）．

断片 10　袖を折り返す提案中の「かわいい」（AV105649.-vol-03　0:03:02~0:03:16）

01 店員　ここまであったらぽしゃっと折り返して[(　)

02 客　[う:んあ:なるほどね:あ:::

→　かわいい((試着室内の鏡を見ながら))

→03 店員　うん(1.0)かわい:(　) ((試着室内の鏡を見ながら))

04 客　うんうんうん(3.0)あ::

客は私物の七分袖のシャツの上に衣服を試着しているが，店員はそのシャツの袖が「ここまであったら」，つまり手首まであったら，その袖を折り返して袖口から出してはどうかという提案をしている．ここでもやはり想像上の着こなしに対して客が「かわいい」（02 行目）と言い，それに対し店員も「うん(1.0)かわい:」（03 行目）と同意している．やはりふたりして，そこにない客および衣服の姿を「見ている」，あるいは少なくとも「見ているように振舞っている」のが分かる．

以上の状況は，一見すると奇妙である．しかし，私たちは衣服をまなざす時，じつは衣服それ自体だけでなく，それを着る人，組み合わせる他の衣服やアイテムなど，現前しないものも同時に“見ている”（堀田 2021）．もちろん，陳列されている状態（「モード A」）でもこうした想像は可能だが，人の身体にまとわれて“変形”した状態（「モード B」[12]）の方が，それを資源としてさまざまな可能性をより想像しやすくなる．店員が（鏡のなかを含め）客の姿に目をやりながら提案しているのは，その証左となるだろう．

そして，これらの会話における「かわいい」という言葉は，「かっこいい」「素敵」「似合う」といった別の褒め言葉に置き換えることがじつは難しい．その理由は，第 2 章で確認したように，「かわいい」という言葉が別様のあり方に拓かれている状態を指すからであると考えられる．だから，想像上の組み合わせや現前しないものに言及する際には，それを評価する言葉として「かわいい」が用いられるのである．

５．考察

鏡に映る自分を見て「かわいい」と言うこと，あるいはより一般的に，鏡に映る自分に対して褒め言葉を言うことは，試着接客場面においてしばしば目にする光景であり，「自然なこと」として受け取られうる．それはなぜなのか．

試着接客場面と美容院でのサービス評価場面には，客が鏡を見て褒め言葉を言う点が共通している．だが，大きな相違点がある．それは，第 1 に，美容院でのサービス評価場面において，客が言う「かわいい」は美容師（の技術）を褒めること，あるいはサービス評価に直結しているということ．第 2 に，美容院のサービス評価場面ではしばしば大きな鏡と手鏡との合わせ鏡がおこなわれ，客は手鏡の方で頭部を局部的に映し出すことによって褒め言葉の対象を焦点化していることである．美容院では，自賛はこのようにして回避されている可能性がある．

いっぽう，衣料品店での試着場面において，自賛のリスクは美容院よりも高いと言える．しかし，客も店員もともに，会話あるいは目線や動作で，これをたくみに回避している．データから見出されたその方法は，次の 2 点に整理できる．

①「対象の焦点化」と「被服性の呈示」
②「かわいい」という褒め言葉の特殊性

① 「対象の焦点化」と「被服性の呈示」

試着接客場面において褒め言葉を用いる際，とくに日本語では主語が用いられないことが少なくない．褒められたのは人なのか，衣服なのか，あるいはその両方なのか，じつはかなり曖昧である．しかも，そもそも衣服を着用することで，人は「衣服内存在」となり，その衣服に「気分づけられる」．したがって，褒め言葉の対象は褒める側にとっても褒められる側にとっても曖昧なものである．

しかし，だからこそ，褒め言葉の対象を衣服に焦点化するということがおこなわれる．これは，「対象の焦点化」と言うべき状況であり，ポメランツが挙げていた「対象の変更」の“亜種”と言いうると思われる．

店員が客を褒める際，試着中という状況からすると，「その衣服を着ている客」という対象について褒めていると考えるのが自然である．だが，このことは客にとっては都合が悪い．なぜなら，その対象には自分自身が含まれており，したがって自賛の禁忌に抵触する可能性があるからである．そこで，衣服への焦点化がおこなわれる．その方法は，会話のなかで衣服に言及する，観察するかのようにまっすぐに鏡を直視する，基本的に動かない，衣服を触る…などというように，衣服を自分自身から区別し，自己の一部ではないモノとして扱うのである．

このように試着時に見られる「対象の焦点化」を含む“いかにも試着中の態度”を，「被服性の呈示」（display of clothedness）と名づけたい．この概念は，C.ヒースの「受け手性の呈示」（display of recipiency）および「意思疎通可能性の呈示」（display of availability）にヒントを得たものである（Heath 1986）．「被服性の呈示」とここで言っているのは，「衣服内存在」の一部を成している衣服と自己とを切り離し，それぞれが別個に存在するモノであるかのように他者に呈示することである．これにより，自己は衣服に「気分づけられた」状態からも一時的に切り離される．「被服性」は「衣服内存在」の要件である，身体が何ものかによってくるまれその存在を支えられる性質のことを表わしているが，より広義にとらえ，身体が何ものかによって装飾される性質と考えてもよいだろう．その意味では，衣服に限らず，帽子や眼鏡，スカーフ，バッグ，靴などの装飾品によっても「被服性」は達成されるのではないかと思われる．

「被服性の呈示」は，店員からのコメントやアドバイスを待っているようにも見えるという点では，診察場面において患者が医師に対しておこなう「受け手性」や「意思疎通可

能性」に類似している．だが，「受け手性」や「意思疎通可能性」が，相手の発話および行為にとっての「受け手」を自ら実践することであり，自己（の身体）を他者にとっての対象とすることであるのに対し，「被服性」は，自己の一部と化している衣服（装飾品）を，自己とは別個のものとして焦点化し，その衣服（装飾品）を自己と他者の両方にとっての対象とすることである．

そして，「被服性の呈示」は，ひるがえって，私たちが「衣服内存在」であることを気づかせる．被服性を呈示しなければ衣服と身体とを切り離して見せる／見ることができないまでに，私たちは「衣服内存在」なのである．

②「かわいい」という褒め言葉の特殊性

第 2 章で，「かわいい」とは，衣服にくるまれるという根源的受動性を引きずり続ける「衣服内存在」としての人の様態であり，別様の可能性に拓かれる，あるいは拓かれた状態を意味する言葉であることを確認した．だから，この言葉には，「かっこいい」や「素敵」といった褒め言葉とは異なる特質がある．この「かわいい」の意味は，ビデオ・エスノグラフィーによってさらに明らかになったと思われる．

まず，「かわいい」という言葉には根源的受動性および「成熟の拒否めいたもの」が含まれているため，それを褒め言葉として用いる場合には対象が限定される．すなわち，「成熟の拒否」が許容される，子どもや若い女性に対して用いられやすい．ただし，根源的受動性とは誰もが共通して引きずり続ける性質であるため，誰に対しても向ける可能性はある．

また，「かわいい」という言葉は，ミッフィーとハローキティの対比で見たように，着飾ることがさらなる着飾る欲望をもたらすという意味では，じつは未完成，不完全さを意味する．だから，第 4 章第 4 節で見たように，「かっこいい」などの褒め言葉とは異なり，想像上のもの，現前しないものに対しても使用されうるのである．

そして，キティは着飾っているからこそまだ見ぬさらなるかわいさ，あるいは（おそらく永遠にたどり着けない）“完成形”を目指し，さらに着飾る欲望が生じる．つまり，現状も「かわいい」が，もっと「かわいく」なれるはずだという意味で現状の「かわいい」は不完全である，という両義的な意味をもつと考えられる．四方田（2008）は「かわいい」を美とグロテスクの間に位置づけ，ある種の両義性を「かわいい」の基礎に見出した．同様に，被服行動に見られる「かわいい」という言葉も，「衣服内存在」を評価しつつ過小評価するという両義性をもって使用されているのではないだろうか．

冒頭で挙げた美容整形外科の CM の女性は，手鏡を見続け「かわいい」という言葉を連発する．その姿は，“魔法”という，自己とは別個の何かによって「かわいく」されていることを明示している――「被服性の呈示」――という点で，自己を評価しつつ卑下しているようにも見えてくる．そして，この“魔法”は，かけられればかけられるほど，「かわいい」への可能性と欲望を増幅させるのであろう．

６．おわりに

本稿では「かわいい」という褒め言葉をめぐる試着接客場面を分析したが，「かわいい」という褒め言葉だからこそ可能な「衣服内存在」をめぐる相互行為秩序とともに，褒め言葉一般をめぐる相互行為秩序――「対象の焦点化」と「被服性の呈示」――を見出すことができた．

今後は，別の褒め言葉（「かっこいい」，「素敵」など）の場合にはどのような相互行為がおこなわれているのか，「かわいい」との共通性や相違性についても見ていく必要がある．また，「被服性の呈示」概念の探究のために，衣服以外のアイテムの“試着”場面も分析していきたい．そのためには，年齢や性別の異なる試着者のデータを収集していかなければならないだろう．

また，客，店員，鏡の位置関係については，本稿でも少し言及した「F 陣形」の観点からさらに研究しようと考えている．鏡のなかには，「アクター」がもう一人あるいはもう一つある．つまり，「鏡のなかの客」である．この“三者”の関係性が試着接客場面でどのように形成されているかについては，次稿で探究したい．

筆者が試着接客場面のビデオ・エスノグラフィーに拘っているのは，試着とはたんに身体に衣服がフィットするかどうかを判別する試みではなく，客，店員，衣服，鏡などといったさまざまなアクターが織り成す創造的な相互行為の場と考えているからであり，「試着のエスノメソドロジー」の目的は，そこで私たちが気づかずにおこなっていることを拾い上げることにある．本稿では，「かわいい」という褒め言葉が特別に有する，身体と衣服，そして自己へのまなざしと，褒め言葉をめぐる「被服性の呈示」という発見から，人が衣服を着用するということの現実に迫ることができたと考えている．そして，本研究での議論は，被服行動に限らず，身体を装飾すること全般にも拡げることができるであろう．

［注］

1) 本稿で扱うデータは，2010 年代に日本国内で撮影させていただいたものであり，目隠しをするなどして本人を特定できないようにすることで公開する許可を得ている．ただし，本稿では目線が重要になるシーンがあるため，目隠しではなく画像処理（Word の図ツール内にあるカットアウトのアート効果）を施すことで匿名化した写真もある（写真７，写真８，写真 10，写真 11）．画像処理はあくまでも匿名化の目的でおこなわれており，本稿の主張に関わる加工や改変などは一切おこなっていない．そのことを示すため，すべての断片や写真には，筆者が所有するデータセットのなかのどこにあるものなのかを明記してある．

2) 試着時の褒め言葉といえば「お似合いですよ」なども“定番”だと思われるが，今回のデータには一切出てこない．なお，筆者の手元にあるデータでは 4 人の店員が複数人に対し接客しているのだが，そのなかで「かわいい」という言葉を用いていたのは，比較的若手の 2 人であった．なお，撮影時に筆者も試着したのだが，「かわいい」という言葉は

一度も掛けられなかったことも注記しておきたい.

3) ただし，買い足す際に，身体に合わないオーバーサイズを試着したような場合には，衣服に身体がくるまれているという印象が強まり,「かわいい」と言いうるかもしれない.

4) 同意の場合であれ非同意の場合であれ，この「褒め言葉の格下げ」が生じる際には，褒める側は再度，褒め言葉を格上げして用いることもある（Pomeranz 1978: 100）.

5) ここで「ひとまず」という表現を用いたのは，英語と日本語とでは表現の仕方が異なるからである．ここでポメランツが挙げている「You look so nice.」は，日本語に訳せば「あなた素敵ね」といったところであろうが，英語に忠実に訳せば「あなたは素敵に見える」となる．では，なぜ素敵に見えるのかというと，この発話をする時点で A は，B が着ている，おそらく A が初めて見たであろう「新しいシャツ」を意識して発話していると考えられる．つまり，A が言わんとすることを厳密に文章に表わせば，「You look so nice in that shirt.」となるかもしれない．しかし，これでは B はそのシャツのおかげで素敵に見えているにすぎないように聞こえなくもない．したがって，ここでの「You look so nice.」は，やはり B 本人に対して向けられなければならないと考えられる.

6) 以下のデータは，いずれも 2010 年代に撮影させていただいたものである．本稿で扱うデータに登場する人びとはいずれも女性であり，客は 20 代前半，店員は 30 代前半〜40 代前半である.

7) 本稿で使用するトランスクリプト記号は以下の通りである.

-	直前の言葉が途切れている
:	直前の言葉が伸ばされている
[	同時発話の始まり
?	語尾が上がっている
<u>言葉</u>	当該の言葉が強調されている
° °	囲まれた言葉が小さな声で発せられている
( )	聞き取れないが何か言葉が発せられている
(.)	ごくわずかな間合いがある
(数字)	数字の秒数だけ沈黙がある
(( ))	筆者による補足
____	（目線を表す場合）当該の対象が志向されている

8) 吉田・高梨・伝（2009）は,「あ」を含むあいづちは，フィラーとの区別が難しいだけでなく，承認や受容を示す「応答系感動詞」と，驚き・感心や気づきを示す「感情表出系感動詞」との区別もつきにくいと指摘している．この「あ:」は，店員の提案に対する受容（「そうですね」の代替）と理解することも，気づき（「なるほど」の代替）と理解することも等しくできることから，両方の意味を備えている（どちらの意味で理解されても構わない発話）として理解することにした.

9) 「クレーム説得連鎖」とは，客のクレームに同意（肯定）したうえで，順接の接続語で

つなぎ，客が指摘する商品の“欠点”や“弱点”をプラス評価に変える会話システムのことを指す（堀田 2021: 13-4）.

10) 「身体ねじり」とは，「首から上と腰から下の身体部分の方向がそれぞれ異なる状態」（Schegloff 1998: 536）のことを指し，たとえば図２の破線の位置のように，店員が客の後方にいて話しかけ客が顔を合わせて応答しようとすると，客は，腰から下は鏡の方向を，首から上は店員の方向を向かなくてはならなくなる．こうした位置関係は美容院でしばしば見られるが，その場合は鏡のなかで顔を合わせて会話することが多い．だが，衣料品店の場合は，店員が客の衣服を整えるといった操作が困難になるためベストポジションとは言えないだろう.

11) ここで店員が，「かわいいですし」と言った後に「（かわいいです）けど」と言い直しているのは興味深い．「～し」と言うと，その後に発話が続くことが期待される．しかし，その後に続ける言葉が用意されていなかったのであろう，店員は即座に「けど」と言い直す. とはいえ,「けど」も本来は文末に用いられるのが適切な語ではない.「かわいいです」の意味で発話を終わらせるのであれば，「よね」という言い換えも可能だったかもしれないが，店員が発したのは「けど」である（「よね」は後から付け加えることが難しい）．ところが，この「けど」は発話の終わりを暗示する語として，客によって受け取られている．それが可能なのは，ここが商品を勧める店員と客との会話だからであると考えられる．つまり，話し手が断定を避けつつ，相手との会話を続ける意思表示としての「けど」として受け取られたと考えられる（三枝 2007）．この点は本稿の主旨から外れるため注記に留めておきたい.

12) 「モード B」とは，衣服が，唯一無二のものである試着者の身体に着用されたことによる“変形”に伴って現われる状態のことを指す（堀田 2021: 14-5）．したがって，「衣服内存在」と同様に，衣服と身体とが不可分なかたちで関連し合っている状態を表わしているが，「モード B」は衣服の観点から，「衣服内存在」は人の観点から，同状態をとらえた概念と区別しうるであろう.

［参考文献］

Heath, Christian, 1986, *Body Movement and Speech in Medical Interaction*, Cambridge University Press.

堀田裕子，2021，「『試着のエスノメソドロジー』の可能性――何がどのように試着されるのか」『現象と秩序』14: 1-20.

石川なつ美，2015，「『かわいい』の意味について」『東京女子大学言語文化研究』24: 21-35.

Kendon, A. , 1990, *Conducting Interaction : Patterns of Behavior in Focused Encounters*, Cambridge University Press.

Oshima, Sae. & Streeck, Jürgen., 2015, “Coordinating talk and practical action: The case of hair salon service assessments”, *Pragmatics and Society* 6(4), 538-64.

Pomeranz, A., 1978, “Compliment Responses: Notes on the Co-operation of Multiple Constraints”, Schenkein, J. ed., *Studies in the Organization of Conversational Interaction*, Academic Press, 79-112.

Pomeranz, A., 1984, “Agreeing and Disagreeing with Assessments: Some Features of Preferred/ Dispreferred Turn Shapes”, Atkinson, J. M. and J. C. Heritage eds., *Structures of Social Action: Studies in Conversation Analysis*, Cambridge University Press, 57-101.

三枝令子，2009，「話し言葉における『が』『けど』類の用法」『一橋大学留学生センター紀要』10: 11-27.

Schegloff, E. A., 1998, “Body Torque”, *Social Research*, 65(3): 535–96.
（http://www.jstor.org/stable/40971262）

四方田犬彦，2006，『「かわいい」論』筑摩書店.

篠原資明，2015，『まず美にたずねよ――風雅モダンへ』岩波書店.

吉田奈央・高梨克也・伝康晴，2009，「対話におけるあいづち表現の認定とその問題点について」『言語処理学会 第 15 回年次大会発表論文集』430-3.

＊＊

【編集後記】

『現象と秩序』第18号をお届けします．今号には，新旧のさまざまな調査に基づいた論文が5本集まりました．本誌らしい品揃えであるといえるでしょう．

第1論文は，「Zoom」利用時によくみられる現象，すなわち「早口で言いたいことをまくし立てる」というような不思議な現象についての研究です．そのようなことがなぜ起きるのか．それはいったいどんな効果を持っているのか．これらの問いにビデオデータの解析を通して答えるものになっています．オチは，コミュニケーション上の必要に対応してのことなのだ，という謎解きになっており，データに基づいた着実な研究であるといえるでしょう．

第 2 論文は，試着場面研究です．試着室で鏡を通して客と店員がコミュニケーションをしているとき，じつは大量の想像がコミュニケーションに伴っているという主張こそは「試着」というものの豊かさを示すものでしょう．本来なら軽蔑の対象となりそうな「自賛」に類似した活動が，試着においてどのように可能となっているのか，の謎解きも秀逸です．

第3論文と第4論文は，いずれも社会言語学的な「罵り言葉」の研究です．関西における罵り言葉には，言及対象の価値を引き下げる効果以上の質があると感じていましたが，このように実例をもって丁寧に例証されると納得です．用例を探しながら青空文庫の『わが町』を読みましたが，とても人情味があってほっこりしました．本作は映画化もされています．実際にどう発話されているか，興味を持ち，現在取り寄せ中です．

第5論文は，「AIと人間の関わり」に関して示唆的でした．AIは，人間の内部にいる他者として，人間の活動を助ける振りをしながらじつは統制しているのではないか．具体的には，人間の現在の選択肢構造を強く支援することで，選択肢構造の変更可能性を実質的に抑圧しているのではないか．そうすることで，人間が新しい人生を生きる可能性を封じているのではないか，と恐ろしく思われました．ゲーム研究から文化研究への道筋が，この路線の先に描き得るようにも思われます．（Y.K.）

『現象と秩序』編集委員会（2022年度）
編集委員会委員長：堀田裕子（摂南大学）
編集委員：樫田美雄（神戸市看護大学），中塚朋子（就実大学），加戸友佳子（神戸大学）
編集協力：村中淑子（桃山学院大学）

『現象と秩序』第18号　　2023年　3月31日発行

発行所　〒651-2103 神戸市西区学園西町 3-4
神戸市看護大学　樫田研究室内　現象と秩序企画編集室
電話・FAX）078-794-8074（樫田研），e-mail:　kashida.yoshio@nifty.ne.jp

PRINT ISSN　：2188-9848
ONLINE ISSN　：2188-9856

http://kashida-yoshio.com/gensho/gensho.html